

「荃南小学校の棒踊り・ひょうたん踊り伝承活動の取組」

1. 学校名	南種子町立荃南小学校
2. 学年・人数	棒踊り：3～6年生 20人， ひょうたん踊り：1・2年生 6人
3. 日時・場所	(練習) 運動会(9月21日)前の約3週間・荃南小学校校庭 (発表) 9月21日 運動会・荃南小学校校庭 10月26日 宝満神社願成就祭(隔年)・宝満神社境内 ← 棒踊りのみ
4. 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事、伝統工芸品について	(1) 名称 棒踊り(ぼうおどり) ひょうたん踊り(ひょうたんおどり) (2) 由来 棒踊りは、島津家が富国強兵の策の一環として、中国の棒術の流れをくんだ兵法の体型におりまぜて演じさせ、青年たちの団結と忠誠の証としたことが始まりとされる。また、ひょうたん踊りは、「金山節」とも呼ばれる。「旧藩時代に歌舞の才をもつ者が、他集落の踊りから暗示を受け、踊りを案出した」と伝える文献もある。 (3) 構成等 棒踊りは、児童数によって構成は変わるが、基本として6人一組に分かれて踊る。うち4人が六尺棒、2人が鎌を持つ。また、ひょうたん踊りは、竹崎集落の保護者が太鼓、入れ鼓、鉦をそれぞれ1人ずつ担当し、ひょうとこ、おかめ、その他色々な面をつけた踊り子を低学年児童が担当する。
5. 文化財伝承・活用の取組において地域との連携や工夫した点等	棒踊りは、荃永上ノ町に伝わる民俗芸能で、以前は荃南中学校生徒が踊っていた。中学校の閉校に伴い、荃南小学校の3～6年生の児童が踊りを受け継いだ。ひょうたん踊りは、荃永下ノ町に伝わる民俗芸能で、学校では1～2年生の児童が踊りを受け継ぐ。 学校と地域が連携協力しながら荃永の民俗芸能を継承していくために、学校では、秋季大運動会の一大種目として位置付け、地域では、地元の宝満神社願成就祭で、児童による棒踊りを隔年で奉納している。民俗芸能の指導に当たっては、棒踊り保存会や保護者が全面的に支援している。
6. 取組の様子(練習状況、発表の場等)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>練習の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>運動会当日の様子</p> </div> </div>
7. 感想・意見(参加児童生徒・保護者・保存会・教員等)	<p>【児童】 初めて踊ったときは、覚えられるか不安だったけど、地域の方や友達に教わりながら練習をして、踊れるようになってうれしかった。 大人になっても踊り続けて、太鼓や唄を受け継いでいきたい。</p> <p>【教職員】 民俗芸能を児童に継承する活動を通して、地元愛や児童の自主性を育もうとする地域性が強く感じられる。今後も、地域や保護者と連携して、子供たちの教育に役立てていきたい。</p> <p>【保存会から】 棒踊りは小学生には難しいが、子供たちは毎年よく練習し、踊れるようになっている。今年は、宝満神社願成就祭でも奉納することができてよかった。</p> <p>【地域の方から】 私たちも踊った棒踊りを今の子供たちが立派に踊っているのを見ることができるのは嬉しい。</p>